

宇都宮木鶏だより 通算第 230 号 令和 2 年 3 月例会の報告

致知読後感想メイン発表・・・鈴木 良男 会員

第 294 回宇都宮木鶏クラブ例会は、3 月 6 日(第 1 (金)宇都宮市東市民活動センターに於いて参加者 9 名、致知読後感想発表リーダーは鈴木良男会員です。特集テーマは、「意志あるところ道はひらく」、全体的に特集に従い、意志についての捉えた。我を忘れるほどに真剣に仕事に打ち込む、私心のないこと、強い意志、天は味方し応援する。国鉄民営化、道なき道を切り開く。自分の命を懸けてやる意志、覚悟、大儀があること。人生はいつまでもゴールが無限である。瞬間瞬間の積み重ねが、とんでもない高みに登れる。オリンピックマラソン、ボクシングチャンピオン。経営の意志について、意志そのものが経営に、理念を持つ経営でなければ。会社の意志の機動力になる。社員従業員も顧客、取引先も、意志を言語化し、潜在力を顕在化する。事業経営者は理念ありきをもとに、繁栄に導けるのではないのでしょうか。相田みつをの後世に示されている意志のある言葉が、禅寺武井哲應老師から「あってもなくてもいいものは、ないほうがいいんだな」。意志を導く、気付くということに、相田みつを自身の生涯の活動を決めてしまうほどのものがある。

論語一章・・・小森俊宜 会員、「以德報徳」憲問第十四、p219.No.368.

「或る人曰く、徳を以て怨みに報いば如何。子曰わく、何を以て特に報いん。直を以て怨に報い、徳を以て徳に報いん。」怨みには、誠意を以て対応する。徳には徳を以て対応すると解すが、朱熹はこう説く。直を以て怨みに報いるとは、相手に対し、無関心であって、心を用いないこと。怨むべきときは怨む。仁を損ない、義を害することになる、行うことでない。仁義ともに尽くすことは、公平無私な態度でいいということ。朱子学の仁齋、徂徠の説。

琴線に響く言葉・・・手塚久雄 会員・坂の上の雲より、日露戦争。

児玉源太郎の知慮というのには限界がある、血を吐いて考えてもやはり限度がある。最後は運だ。対し、秋山好古は、はじめから運頼みは馬鹿のすること、戦争に拘わらず、全てにおいて自分で考え、実行する。はじめから運や人に頼ってはいけな。日露戦争に勝利したというけれど。

「致知」読後の実践体験報告・・・五十嵐会員・・・児童虐待に、救えなかった大人たちへ、犠牲に遭った子供たちの手紙を読み上げた。目頭を熱くするのは、大人たちの無情さ、仁義の無さが悲しいから。

事務局 連絡・・・次回 令和 2 年 4 月 3 日(土)PM 6 時 30 分から、21:20 解散

会 場 宇都宮市東市民活動センター・2F/研修室 *読後感想メイン発表、沼尾トミエ会員

*論語一章は、駒ヶ嶺習弘会員です。*琴線に響く言葉の発表者は、五十嵐薫会員です。*素読リーダー当日。

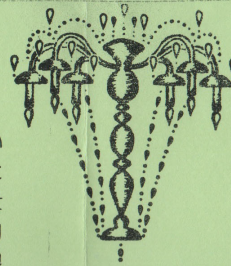
*実践体験、Completion...今日の振り返り、講評論評。希望者。(役割担当無かった会員)、

読後の実践報告・・・希望会員より、**決められた時間内を守れる話が、一番うまい。**

第 31 回「**論語に学び実践する会**」・宇都宮東市民活動センター4 月 19 日(日)、13:00 から

14:30 自由参加で懇談会 15:00 迄、**自己の論語一章、希望される方は、発表の機会があります。レジュメは作らず、配布せず、素読して、解釈と自己とを結び付けてください。**

7~10分です。*当日お申し出ください。



こんな講話を聴きました。

「喜びと感謝と敬いの心」薬師寺執事長 加藤朝胤氏 講話

仏教は釈尊が説いたものですが、今日一日をいかに生きるかを説いています。死後のことでもなく、過去でもなく、明日でもない、今日の一日である。今日一日をいかに生きるか。そこに繋がるものが何か。薬師寺は、墓も葬儀もない、釈尊の導きを広めるのみの寺である。

水を飲む、人も、牛も水を飲む、受け取り方はどうであるか、飲みたい気持ちは同じだろう。のどが渇からだろうが、千差万別であるということは知っているが、どう受け取るだろうかということとは思ったことがあるだろうか。受け取り方に、欲望という心が入ると、たかが水はただの水ではなくなる。人間だけが違うの見方をする。ここに自分を見る。

今日を生きるとは、身心安楽(しんじんあんらくと読む)、をいつも叶わぬと思いつつも、望む。人の生きることは、こう生きていくとはここに尽きる。身と心は一如、共に安楽でなければなるまい。「心の安寧」心身ともに安寧あることにつきる。一位の人生になのだ。(松下幸之助の思う PHP スピリットにも言える) 楽ちん、楽な人生がいい、何もしなくても楽というのではない、いろいろなことを乗り越えてきた人生。楽な人生、楽しく愉快な人生がいい。

「楽ちん」ちんの文字はひらがな、意味は、身が楽になると解す、どうやら楽身がなまって、「らくちん」と言われているという説が分かる。身が楽になることほど、いいことはないのだから。ツアーコンダクター(案内人)の仕事、楽しい旅行を、予定通り、つつがなく楽しさと喜びのあるいは感動のある案内していく、しかし、これは当たり前のことである、コンダクターの果たす役割はなんであるか、自分自身が気付かなくとも、それは次へつながるか、リーベートするか、紹介してくるか、お客様のお世話をするとすることは、こういうことに繋がらなければ、常に苦勞の連続だろう、事業の商売の繁栄繁盛とはこれが成果(成功)ということになる。人生に、人が生きるということの大事や役割を果たしている、自覚されているだろうと思う。サービスと簡単にいうが、「人の心に、物を宿す」と考えたら、それは、人と我の共に得る喜びであり、お客の感動であり、お客への感謝である。次へつなぐとはそれが、敬いとなる。頼れるから信じられる、信頼となる。繁栄の法則といわれるものである。

ポールは片手で投げますが、受け取る時は、両手で落とさないように丁寧に受け取るでしょう。すべてはこの気持ちですね。心を込めるが如し、仕事は、人生のいきる糧ととらえるだけでなく、今日を生きる喜びと感謝の糧としていく心が大切ですね。

付録。こう言う話しもされた。

瞑想と座禅である。これをするとは、一切を無になるとよく聞くがそれは仕上げではない。その後にあるものが大切大事なのである。座禅、瞑想、内観、ブレイクスローも、皆精神統一として、用いるが、まずは無になる、とは全部出す。自分を作る。思いも考えも取り払い、雑念を取り払い、頭の中は、心の中は空である。そこまで行くと、初めて今の自分、今からの自分を思い。これからの自分を考えるようになる。この時はまだ自分に気付いていない、発見、発明が閃いてくる。どうするか、集中してみる。どうするか、どうしていくか、求めていく、座禅、瞑想の中に、ずっと先の先に、光明らしきものがかすかに見えてくる。引き寄せていく、近づいていく、どうするか、どうしたいのか、するのかもしれないのか、何をするか、何からするか、いつするか、

その光をつかもうとする、それが今の、これからの自分なのだ、輝かしい、真っ白な、何も無い世界になっている。立ち上がろう。目を、両目を開けよう。自分の未来に、既に自分の未来に、既に出会っているのだ。人生は、振り返りをしても、後ろは向かない、できない理由より、いかにしてやるかしかない。前を、前を見る。前しか意味無いから。 28.11.15 千葉幕張 五十嵐薫 記述